

平成27年11月11日(水)

産経新聞

号外

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN

発行所 ©産業経済新聞大阪本社2015

〒556-8660 大阪市浪速区湊町2-1-57

☎大阪(06)6633-1221 (大代表)



国産ジェット初飛行

MRJ、旅客機半世紀ぶり



愛知県名古屋空港を離陸した国産初のジェット旅客機MRJ—11日午前9時35分、同県豊山町(本社ヘリから、竹川禎一郎撮影)

三菱航空機(愛知県豊山町)が開発する国産初のジェット旅客機MRJ(三菱リージョナルジェット)が11日午前、愛知県名古屋空港(同町)から飛び立った。国産旅客機の開発は、昭和37年8月に初飛行したプロペラ機「YS-11」から約半世紀ぶり。国産ジェットは開発開始から10年以上かけて、ようやく初飛行にこぎ着けた。

名古屋空港の滑走路では報道関係者約300人、航空関係者約100人が見守る中、白いスマートな機体が轟音とともに初めて空へ飛び立った。天候は晴れで、薄い雲が広がる中、MRJは無事離陸した。

飛行時間は1時間程度の予定で、上昇や下降、旋回などの基本的な操舵性能を確認する。

旅客機として運航するには国土交通省から安全性を認証される「型式証明」の取得が必要で、そのために初飛行後、日米で計2500時間の飛行試験を行う。

MRJは全長35m前後、座席数は70〜90席程度の小型機。主に地方と地方を結ぶ路線で利用される見通し。従来機よりも燃費が優れているのが特徴だ。

開発では設計の見直しなどが相次いだ。スケジュールの延期は5度に上り、初飛行も当初の計画より遅れた。今後は、平成29年4〜6月に予定している初号機の納入期限を守れるかが焦点となる。

航空機に必要な部品点数は数百万点とされ、部品メーカーへの波及効果や日本の航空機産業の振興につながると期待されている。

産経 WEST

sankei.com/west/

産経新聞
購読のお申し込みは

0120-34-3733